

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 徳力 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

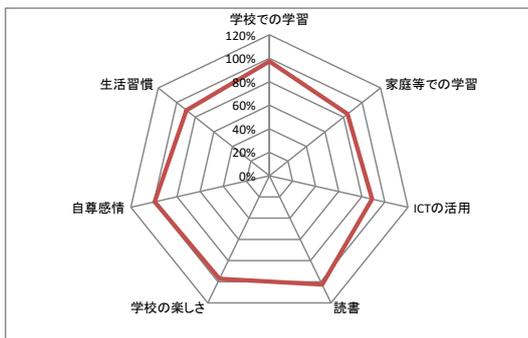
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均値をやや下回っている。 「話すこと・聞くこと」についての正答率は、ほぼ全国平均値と同等である。 「言葉の特徴や使い方に関する事項」についての正答率が低く課題となっている。	全国平均正答率との比較	下回っている
	よくできた問題	話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える問題		
	努力が必要な問題	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。		

算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均値をやや下回っている。 「思考・判断・表現」を評価するための、自分の考えを説明する記述式の問題の正答率が低く課題となっている。	全国平均正答率との比較	下回っている
	よくできた問題	「1050×4」のように、被乗数に空位のある整数の乗法の計算をする問題 図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成について考える問題		
	努力が必要な問題	「果汁が含まれている飲み物を半分にする」場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことについて判断する問題		

理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均値をやや下回っている。 「思考・判断・表現」を評価するための、自分の考えを説明する記述式の問題の正答率が低く課題となっている。	全国平均正答率との比較	下回っている
	よくできた問題	見出された問題を基に、観察記録が誰のものであるかを選択する問題 問題に対するまとめを導き出せるように、実験の過程や得られた過程を適切に記録する問題		
	努力が必要な問題	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選択する問題 結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのか判断する問題		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・「読書活動」に対して肯定的な回答をした児童の割合が、全国平均値を上回っている。朝の読書タイムや読書ボランティア「たんぼぼ」の活動が成果としてあげられる。	
・「学校の楽しさ」「自尊心」に対して肯定的な回答をした児童の割合も高く、全国平均値とほぼ同数値である。	
・「家庭学習時間は、平日は1時間以上」の割合が、全国平均値よりも低くなっている。	
・「ICTの活用」については、「勉強の役に立つ」と回答している児童が多い反面、「活用頻度」についての回答が低かった。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の授業の中で、児童が自分の考えを「読む」「書く」「話す」場面をバランスよく取り入れ、「思考力・判断力・表現力」の向上に努める。 ・児童の言葉で「めあて」「まとめ」を設定し、「ふりかえる」活動を取り入れるなど、児童が主体的に学習に取り組む工夫を行う。 ・一人一台タブレットを中心としたICTの活用について、教師が授業の中での効果的な活用法について研究し、児童の学びに還元していく。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習について、教師が課題として与える「宿題」と、児童自身が学びたい「自主学習」をバランスよく取り入れ、家庭学習の時間と質の向上に努めていく。 ・「学校が楽しい」と思える児童、「自尊心」が高まる児童がより増えていこう、児童の小さな頑張りを認め励まししながら、日々の指導に努めていく。
--